

第17章 生活環境

1. 治安

ブラジルの治安については、外務省より以下のような情報が流されている。サンパウロ・リオデジャネイロ等主要都市においても危険情報が発出されており注意が必要である。

図表 17-1 ブラジルに対する渡航情報（危険情報）の発出（2010年12月21日掲載）

- サンパウロ州大サンパウロ圏及びカンピーナス市、リオデジャネイロ州大リオ圏、アマゾナス州大マナウス圏、パラ州ベレン圏、ペルナンブコ州大レシフェ圏、バイア州サルバドール市及びエスピリト・サント州大ヴィトリア圏
：「十分注意してください。」（継続）
- ブラジリア連邦区、パラナ州大クリチバ圏
：「十分注意してください。」（新規）

（出所：外務省ウェブサイト）

図表 17-2 ブラジル治安概要（2010年8月23日掲載）

ブラジルにおいては、所得格差による貧困、麻薬を起因として、強盗、殺人等の凶悪犯罪が多発しています。また、ほとんどの一般犯罪には銃器が使用され、抵抗すると銃器等で危害を加えられる可能性が非常に高く、注意しなければなりません。凶悪犯罪は、大都市で生じたものが報道で紹介され、目立ちがちですが、地方都市においても基本的に同様であり、油断できません。

一般に、治安は景観に比例するところがありますが、ブラジルにおいては、観光地の非常に美しい場所においても、銃器を使用した凶悪犯罪が多発しています。

麻薬等に絡んだ組織的な犯罪も多発しており、特にリオデジャネイロ及びサンパウロにおいて、ファベラ（スラム街）を活動拠点とする犯罪組織間の抗争事件又はこれら組織と治安当局との間の銃撃戦が後を絶たない状況です。ファベラ周辺での流れ弾による被害や路線バスが無差別に放火される事件も発生し、一般市民にも犠牲者が出ており、状況は深刻化しています。日系団体等所在地および在留邦人居住区においても銃器を使用した侵入強盗、路上窃盗および車両強盗等の凶悪犯罪が多発しています。

誘拐事件に対しても引き続き警戒が必要です。特に、都市部では昼夜を問わず「短時間誘拐」（「電撃誘拐」ともいわれ、金品や車両を強奪するために、銃等を使って脅迫し、一時的に拘束するもの。ATM等で現金を引き出させたり、携帯電話や車両を奪った後に連絡手段のない市街から離れた場所で解放するのが一般的な犯行パターン。）が多発していることから、防犯対策に留意し、行動する時間帯や場所等に十分注意する必要があります。

（出所：外務省ウェブサイト）

II. 生活環境

ここでは、注意点等についてトピックス形式で記述する。主要都市の生活環境詳細については各論にて記述する。

II-1. 渡航前の注意点

① ビザの取得

ブラジルへの入国にはビザが必要。永住権を持たない日本人は最長でも 1 年間に 180 日しか滞在できない。商用ビザを取得するためには、会社ヘッダつきのレター、写真、パスポートが必要であり、商用ビザは必要がない限り一回につき 30 日しか発行されない。それ以上の期間滞在を予定している場合は、その旨を説明し発行してもらう必要がある。

観光ビザであれば会社のレターは必要ないが、商用ビザより申請に時間がかかる。

② 言語対策

空港施設や中級以上のホテル、高級な商店を除いては、英語は通じないため、ポルトガル語の簡単な挨拶くらいは覚えておいたほうがよい。訪問予定先等がある場合は、タクシー乗車等の際に見せられるよう事前に地図等をプリントアウトしておくとう便利である。

③ 衛生、身の回り対策

ブラジルは予防接種を入国の際に義務付けていないが、熱帯地域や農村部を訪れるなどの場合は、黄熱病と A 型肝炎については事前に接種することが望ましい。検疫所での受付日時は限られ事前に申し込む必要があるため、早めの対応が必要である。

いわゆる OTC 医薬品の多くは現地の薬局でも購入可能だが、用法・用量等を記載した能書を理解することが不安であれば、日本から常備薬等を準備しておくことが推奨される。

ホテルに滞在するに当たって、洗面用具等や寝巻類、室内用スリッパ等を利用するなら持参する必要がある。ホテルによって異なるものの、備え付けてあるアメニティは、タオル、ドライヤーと簡単な石鹸類程度であることが多い。ただし大概のトイレタリー製品類は現地のドラッグストアやスーパーマーケット等で購入することが可能だ。

④ 航空機の利用について

大別して北米大陸経由と欧州大陸経由がある。北米経由のほうが日本発の時間が遅いことが多い。しかし、航空券の値段や空席の状況はタイミングによってまちまちであり、どの経由地が優れているとはいえない。北米経由で米国を経由地とする場合、一旦同国に入国手続きをする必要がある。従って ESTA の取得が事前に必要であり、預けた荷物を經由する空港で一旦受け取って再度預ける手間も必要である。

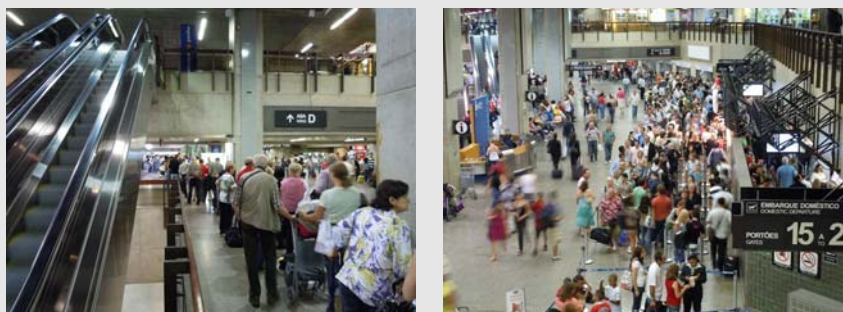
サンパウロとリオデジャネイロは、それぞれ主要な空港が 2 箇所あるため、乗り継ぎの際は特に注意が必要である（サンパウロはグアルーリョス国際空港（GRU）とコンゴニャス

国際空港（CGH）。リオデジャネイロはカルロス・ジョビン国際空港（GIG）とサントス・デュモン空港（SDU）。

ひとくちメモ ⑩：混雑するグアルーリョス国際空港

ブラジルの空の玄関であるグアルーリョス国際空港は、欧米向けの出発便が夕方から深夜の時間帯に集中するため、この時間帯は非常に混雑する。搭乗手続き、出国手続きのいずれにも長大な行列ができやすく、空港到着から搭乗口に至るまでに 2 時間以上かかることも珍しくない。

混雑する空港内



⑤ 時差

ブラジルのほとんどの主要都市は日本との時差が 12 時間遅れである（JST-12、GMT-3）。ブラジルの西半分には位置する州ではさらに 1 時間遅れとなり（JST-13、GMT-4）、主要都市のうちマナウスがこの時間帯に含まれる。

また、南半分に位置する州はサマータイムを採用する。この期間は日本の秋冬に当たる。適用時は 1 時間前倒しとなり、サンパウロ、リオデジャネイロ等はこの時期、日本より 11 時間遅れ（JST-11、GMT-2）となる。

図表 17-3 ブラジルの標準時間帯
 (緑：日本と13時間遅れ。オレンジ：日本と12時間遅れ)



(出所：Divisão Serviço da Hora (DSHO))

図表 17-4 ブラジルの標準時間帯／サマータイム採用時

(緑：日本と 13 時間遅れ。オレンジ：日本と 12 時間遅れ。黄：日本と 11 時間遅れ)



(出所：Divisão Serviço da Hora (DSHO))

⑥ 電力

サンパウロとリオデジャネイロは日本と同じコンセント形状で電圧は 110V、従って日本から持参する電気製品はそのまま使用することができる。

しかし地域によって異なるコンセント形状や電圧が一般的である場合がある。渡航先に応じて、事前に確認および準備する必要がある。

II-2. 現地での移動

① タクシー

<概要>

タクシーは一般的に安全といわれる。出張時の市内交通や空港との往来はタクシーを利用するのが望ましい。

<料金>

料金は、日本と同様にメーターで計測する。しばしば遠回りをしているように感じることもあるが、これは一方通行の道路が多いためである。領収書が必要な場合は、料金を支払う際に「Recibo, por favor!」（ヘッシーボ、ポルファボール）と伝えて発行を求めなければならぬ。日本のようなレシートの形状ではなく、手書きの領収書が発行される。

メーターは小数点以下の金額も表示しているが、実際に支払う料金はレアル単位に適当に切り上げられる（ときには切り下げられる）のが慣例。切り上げて請求されても、運転手が小銭をごまかす意図ではない。なお、クレジットカードは使えず、可能であれば、20レアル以下の小額紙幣で支払うことが望ましい。

<乗り方>

タクシーに乗車する際は、走行中のタクシーを停める以外にも、街中の至るところにある「Taxi Ponto」と書かれた停留所に待機している空車を利用することも可能である。大きなホテルや商業施設等にも空車が待機していることが多い。

ドアは手動であるので利用者自身が開閉する必要がある。一人で乗車する際は、後部座席に座っても助手席に座ってもよい。

<行き先>

タクシーの運転手は、近距離エリアであれば道をよく知っていることが多い。地図がなくても、住所（通りの名称と番号）がわかれば正確に希望の場所まで連れてくれる。しかし、遠距離（30分以上かかるようなエリア）にタクシーで行く際は運転手が目的地周辺の道を詳しく知らないこともあるため、あらかじめ地図のプリントアウトを携帯することが望ましい。

② 地下鉄 (Metro)

<概要>

サンパウロの地下鉄は基本的には安全といわれる。他都市でもさほど危険を感じずに乗車可能であるが、安全に留意すべきことは当然である。

<料金>

地下鉄路線内は距離に関わらず同一料金である。この料金はインフレ率等に合わせて変更される。なお、地下鉄と接続する他会社線と乗り換える際は別料金となる。

<乗り方>

各駅の有人窓口でチケットを買って、自動改札を通り乗車する形である。時刻表はない

ため、電車が来るまで待つしかない。路線によって運転間隔は異なる。

<行き先>

路線網の充実が遅れているため、目的の駅まで意外と遠回りすることがある。必ずしもタクシーより早いとは限らない。

③ 路線バス (Ônibus)

バス停でバスを待ち、目的のバスが来たら手を上げて合図してバスを停める。誤った行き先のバスを停めると、運転手が嫌そうな顔をするので注意が必要だ。路線バスは一般市民の便利な足ではあるものの、基本的に土地勘がない限りはバスの利用は難しい。

④ 徒歩

歩く際は、現金をあまり財布に入れて持ち歩かないようにし、携帯電話で話しながら歩くこともなるべく避けるべきである。財布の中に高額紙幣が入っていると、悪い意味で目立つからである。携帯電話での会話も、周囲への注意力が散漫になり危険の察知が遅れがちである。

また、車両は右側通行である。道路を横断する際は、日本とは逆なので注意が必要である。歩行者優先の考え方は普及していない。特に交差点の横断歩道を青信号で渡る際、右左折車は横断歩道前で減速しないことが一般的であるため十分注意する必要がある。

サンパウロの中心地は坂道が多く、また歩道の舗装には段差が多くある。特に暗い時間帯には注意して歩行するべきである。

⑤ その他道路事情全般

都心では、朝夕の通勤時間帯と雨天時は渋滞が激しい。最も渋滞しやすい道路は、都心から放射線状に伸びる幹線、および都心の幹線道路に左折して入れる道路である。一部の幹線道路にはバスレーンが設けられており、実車中のタクシーもこのレーンを通行できるものの、込み合う時間帯はバスの数も増えるため、大幅な時間短縮にはならない。

なお、サンパウロにおいては、都心からグアルーリョス、コンゴニャスの両空港まではそれぞれ 1 時間弱、30 分弱程度であるが、渋滞時はこの 2~3 倍を見込んでおいたほうがよい。

II-3. 現地での生活

① 治安対策

大事な荷物は肌身から離さないのが基本であるが、雰囲気の良いところや怪しい人のいるところ、警察官が多く集まっているところ、いわゆる *favera* (貧民街) などへは未然に近づかないように注意すべきである。日本人街である *Liberdade* (リベルダーヂ) 地区もあまり安全でないと言われている。

② チップについて

基本的にはチップは必要ない。タクシー乗車時に特別な便宜を図ってもらったとき（待たせたとき、荷物を持たせたとき、など）等にチップを渡す程度である。ホテルでも同様であり、チップを出さなくても部屋は片付けてくれ、荷物も運んでもらえる。

③ 通信環境について

<携帯電話>

携帯電話は街中および地下鉄内で利用可能である。最近では、多くの人が携帯電話を所有するようになり、携帯電話会社のショップも多く見られる。契約形態は後払いの形態の他に、前払い（プリペイド型）も存在している。通信料は日本に比べ高いのが現状である。

ブラジルでは、小規模な雑貨屋においても携帯端末が販売されており、プリペイドカード等は「banca」（バンカ＝新聞販売スタンド）でも購入可能である。

<インターネット回線>

主要な商業施設、大手のホテルのロビー、空港などでは、公衆 wi-fi サービスもあり有料ながら利用可能である。通信速度はあまり早くない。特にマナウスでは非常に遅いと言われている。

④ 買い物について

現金の他にクレジットカードおよびデビットカードが多くの店で利用可能である。生鮮食品、飲料、酒類等を除いて、一般的な物価は基本的に日本より高いといえる。空港や鉄道駅を除き、自販機は存在しない。飲料等は、雑貨店、ガソリンスタンド併設のコンビニエンスストア、あるいはドラッグストア等で購入可能。バンカでも、新聞雑誌だけでなく、簡単な飲料程度のものは購入可能である。

レジでの会計の前に店員「CPE」（現地在住者に付与されている納税者番号）を尋ねられる。現地の納税者番号を保有しない日本人には関係ないため「Não」（ノン）と応じればよい。

⑤ 飲食店について

<ポル・キロ>

昼食時は量り売り（por quilo =ポル・キロ）のサービスを提供する店を多く見かける。好きなものを好きなだけ取って、秤のあるカウンターで重さを計測してもらって伝票を受け取り、空いている席に適当に座って食べるという形式である。代金は食事後、入り口近くにあるレジで支払う。

<フードコート>

ショッピングセンター内にはフードコートがあり、昼夜ともに利用可能である。日本と

同様、代金と引き換えに商品を受け取り、空いている席に座る形である。フードコートでは下膳が必要である。

<レストラン>

レストランでは、テーブル会計の場合が多い。「A conta, por favor!」（ア・コンタ、ポルファボール）で伝票を持ってきてもらえる。夕食の時間帯であってもアルコール類を注文する必要はなく、一人で飲食店に入っても問題ない。無料の水やお茶は日本食レストランでない限り出てこない。外食一般に値段は安くなく、酒類以外は日本で外食するときほど変わらない価格水準である。チップは原則不要である。

⑥ 喫煙スペース

公共の場所と考えられる建物等の内部（ホテルのロビー、オフィスビル、飲食店、空港、鉄道駅、タクシー車内等）はすべて禁煙である。飲食店では、店外の歩道に出されている縁台の席であれば喫煙可能である。なお、路上禁煙の考え方はないため、道路は喫煙可能である。

地 域 編

ブラジル行政区分 (26州および1連邦首都府)



	Acre	アクレ		Paraíba	パライバ
	Alagoas	アラゴアス		Paraná	パラナ
	Amapá	アマパー		Pernambuco	ペルナンブーコ
	Amazonas	アマゾナス		Piauí	ピアウイ
	Bahia	パイア		Rio de Janeiro	リオデジャネイロ
	Ceará	セアラ		Rio Grande do Norte	リオ・グランデ・ド・ノルチ
	Brasília (DF)	連邦首都府(ブラジリア)		Rio Grande do Sul	リオ・グランデ・ド・スル
	Espírito Santo	エスピリト・サント		Rondônia	ロンドニア
	Goiás	ゴイアス		Roraima	ロライマ
	Maranhão	マラニョン		Santa Catarina	サンタカタリーナ
	Mato Grosso	マトグロッソ		São Paulo	サンパウロ
	Mato Grosso do Sul	マトグロッソ・ド・スル		Sergipe	セルジッペ
	Minas Gerais	ミナスジェライス		Tocantins	トカンチンス
	Pará	パラ			

サンパウロ州、リオデジャネイロ州、連邦首都府、マナウス自由貿易地域概要

主要行政区域の主な進出企業



アマゾナス州	サンパウロ州	リオデジャネイロ州
<p>【主な進出企業】</p> <ul style="list-style-type: none"> • Denso Industrial Amazonia Ltda. (デンソー、豊田自動織機、豊田通商) • Nissin-Ajinomoto Alimentos Ltda (味の素、日清食品ホールディングス) • Yamaha Motor da Amazônia Ltda. (ヤマハ発動機) • Moto Honda da Amazonia Ltda (ホンダ) • Intercâmbio Comercial Nomura Ltda (大阪特殊合金) • Nissin Brake do Brasil Ltda. (日信工業) 	<p>【主な進出企業】</p> <ul style="list-style-type: none"> • Honda Automóveis do Brasil Ltda. (ホンダ) • Panasonic do Brasil Ltda (パナソニック) • Toyota do Brasil Ltda. (トヨタ自動車) • Semp Toshiba Amazonas S/A. (東芝) • Iharabras S/A Indústrias Químicas. (日本曹達、住友商事、クミアイ化学工業) • Nissin-Ajinomoto Alimentos Ltda (味の素、日清食品ホールディングス) • Yasuda Seguros S.A. (損保ジャパン) 	<p>【主な進出企業】</p> <ul style="list-style-type: none"> • Albacora Japão Petróleo Limitada (国際石油開発帝石、双日) • Frade Japao Petroleo Ltda, (国際石油開発帝石、インペックス、北カンボス沖石油) • MODEC Serviços de Petróleo do Brasil Ltda (三井海洋開発) • Toyo do Brasil-Consultoria e Construcoes Industriais Ltda. (東洋エンジニアリング) • JRC do Brasil Empreendimentos Eletrônicos Ltda (日本無線)